

# Sustainability at Mitsubishi Electric Group

三菱電機グループのサステナビリティ

24 サステナビリティマネジメント

26 G：ガバナンス

33 E：環境

35 S：社会

41 ESG情報開示一覧

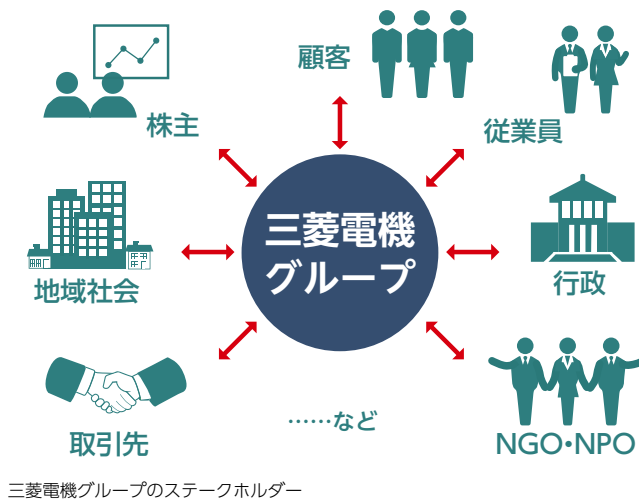
## サステナビリティマネジメント

### ● サステナビリティの考え方

三菱電機グループでは、サステナビリティを企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」「私たちの価値観」「コミットメント」に則り、全ての活動においてサステナビリティを志向した取組を行います。

社会からの期待や要請・ご意見を活動に反映させ、社会にご迷惑をかけないことはもちろん、持続可能な社会の実現に向けた取組を推進するためには、様々なステークホルダーとコミュニケーションを取ることが必要です。

サステナビリティに関する透明な情報開示を行うことでステークホルダーからの共感をいただき、ステークホルダーと共に「活力とゆとりある社会」の実現を目指します。



### ● サステナビリティ推進体制

三菱電機グループのサステナビリティの取組は、三菱電機の執行役員から委嘱を受けたサステナビリティ委員会の方針・計画を決定しています。サステナビリティ委員会は三菱電機の管理部門長(経営企画室や人事部などの環境、社会、ガバナンス担当の23名)から構成されており、前年度の活動実績の把握や今後の活動計画の決定、法改正への対応など、三菱電機グループの横断的な視点から議論を行っています。なお、サステナビリティ委員会の内容については、執行役員会議や監査委員会を通じて経営層へ報告されています。

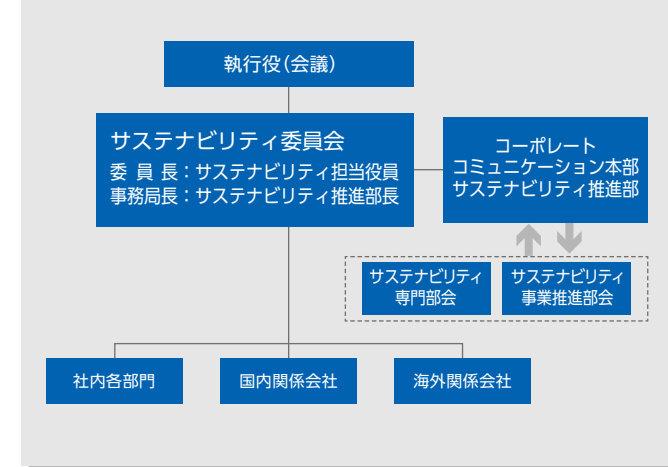
具体的な活動については、サステナビリティに関する活動は企業経営そのものであるとの認識から、倫理・遵法、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなど、それぞれを職掌する部門が三菱電機グループに共通するサステナビリティ方針に基づき、責任を持って推進しています。

サステナビリティ委員会を原則として年に2回以上開催しているほか、サステナビリティ委員会でご定めた方針・計画を共有・実行する場として、サステナビリティ専門部会、サステナビリティ事業推進部会を開催しており、コミュニケーションを図りながら活動を推進しています。

**サステナビリティ委員会の主な議題(2021年4月開催)**

- ・前年度の実績報告と今年度の活動予定
- ・経営レベルでのサステナビリティについての取組
- ・マテリアリティ(重要課題)の見直し
- ・SDGsへの対応
- ・ESG(環境・社会・ガバナンス)投資を考慮した情報開示の一層の拡充
- ・人権の尊重の取組

### ● サステナビリティ推進体制



### ● マテリアリティ

三菱電機グループは企業理念にある「活力とゆとりある社会」を実現するため、サステナビリティの取組をより一層、経営レベルで重視し、「事業を通じた社会課題解決」「持続的成長を支える経営基盤」の2つの面から5つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。マテリアリティの取組を通じて、SDGsへの貢献をはじめとした社会課題の解決に貢献し、経済的価値と社会的価値を創出します。また、マテリアリティの取組状況について積極的な情報開示を行い、ステークホルダーの皆様との対話を推進します。

	マテリアリティ(重要課題)	重要とした理由
事業を通じた社会課題解決	持続可能な地球環境の実現	気候変動をはじめとする環境問題、資源・エネルギー問題は、世界的な課題です。三菱電機グループは、持続可能な地球環境の実現を目指し、これらの解決に貢献します。
	安心・安全・快適な社会の実現	三菱電機グループは、多様化する社会課題の解決に向け、「ライフ」「インダストリー」「インフラ」「モビリティ」の領域においてグループ内外の力を結集した統合ソリューションを提供し、安心・安全・快適な社会の実現に貢献していきます。
持続的成長を支える経営基盤強化	あらゆる人の尊重	人権は世界的な課題であり、すべての人を個人として尊重する必要があります。三菱電機グループはすべての活動において、人権を尊重します。また、すべての従業員がいそいそと働ける職場環境を実現します。
	コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの持続的強化	コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスは、会社が存続するための基本です。三菱電機グループは、これらを持続的に強化します。
	サステナビリティを志向する企業風土づくり	三菱電機グループは、すべての活動を通じてサステナビリティの実現へ貢献します。そのために、ステークホルダーと積極的にコミュニケーションを行い、中長期視点で取組を推進する風土を醸成します。

### ● 重点的に取り組むSDGs

2018年度に定めた「重点的に取り組むSDGs」について、2021年度、マテリアリティ(重要課題)特定にあわせて見直しを行いました。

見直しにあたって、社内外アンケートでSDGsへの貢献について期待の高い項目を確認した結果、事業を通じた社会課題解決への期待が高いことが判明しました。

また、社内での検討の結果、三菱電機グループが今後注力していく「脱炭素社会の実現」「ライフ、インダストリー、インフラ、モビリティ」の4つの領域における社会課題の解決に対応する目標3、7、9、11、13を「重点的に取り組むSDGs」としました。総合電機メーカーとしての強みを発揮できるこれらの目標に対し、価値創出への取組をより一層推進することで、SDGsの目標の達成に具体的に貢献します。

- 目標3: すべての人に健康と福祉を ライフ領域、モビリティ領域
- 目標7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに 脱炭素社会の実現にむけた生産時や製品・サービスの省エネ化等
- 目標9: 産業と技術革新の基盤をつくろう インダストリー領域
- 目標11: 住み続けられるまちづくりを インフラ領域、モビリティ領域
- 目標13: 気候変動に具体的な対策を 脱炭素社会実現

今後も三菱電機グループはSDGsの考え方を経営に統合し、重点的に取り組むSDGsに対してマテリアリティの取組を通じて貢献していきます。

